

①文章…いくつかの文で成り立っているもの。

例 今は昔、比叡の山に見ありけり。僧たち、宵のつれづれに、「いぎ、かひもちひせむ。」と言ひけるを、この児、心寄せに聞きけり。さりとて、し出さむ待ちて寝ざらむもわるかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。……

②文…一続きのことばで成り立っているもの。一続きのことばの終わりには句点。「」が用いられる。

例 今は昔、比叡の山に見ありけり。

③文節…ことばとして不自然にならない範囲で、できるだけ小さく区切ったもの。

例 今は昔、／比叡の／山に／見／ありけり。／

文節の分け方

1) ことばの最後やことばとことばの間に「ネ」をいれて不自然でないところで区切る。

例 今は(ネ)／昔(ネ)、／比叡の(ネ)／山に(ネ)／見(ネ)／ありけり。

2) 自立語が必ず一つだけ入っている。

3) 付属語は入っていないなくても、あるいは複数入っていてもよい。

※自立語、付属語については、このあと説明しています。

例 今(自立語)は(付属語)／昔(自)、／比叡(自)の(付)／山(自)に(付)／見(自)／あり(自)けり(付)。

④単語…文節をさらに小さく区切った最小の単位。ことばとしてそれ以上小さく分けることはできない。

例 今／は／昔、／比叡／の／山／に／見／あり／けり。

単語の分類

1) 「自立語か付属語か」で分類。

自立語…そのことばだけで意味がわかる(≡文節になることができる) 単語。

付属語…そのことばだけでは意味がわからない(≡文節になることができない) 単語。

2) 「活用するか、しないか。(≡単語の形が変わるか、変わらないか。)」で分類。

例 「走る」↓走らず、走りて、走れども、走れ。

もとは「走る」という形だが、「走ら」「走り」「走れ」と形が変わっている。

↓活用している

例 今は昔↓「今ひ昔」や「今ふ昔」などと形が変わらない。「は」「は」「は」のまま

↓活用しない。

3) 「どのような働きをするか。」で分類。

(主語になるのか、述語になるのか、修飾語になるのか、接続語になるのか、独立語なるのか、など) ↓ちなみに、単語を働きごとにまとめた(分類した)ものを「品詞」といいます。品詞については、またの機会に。